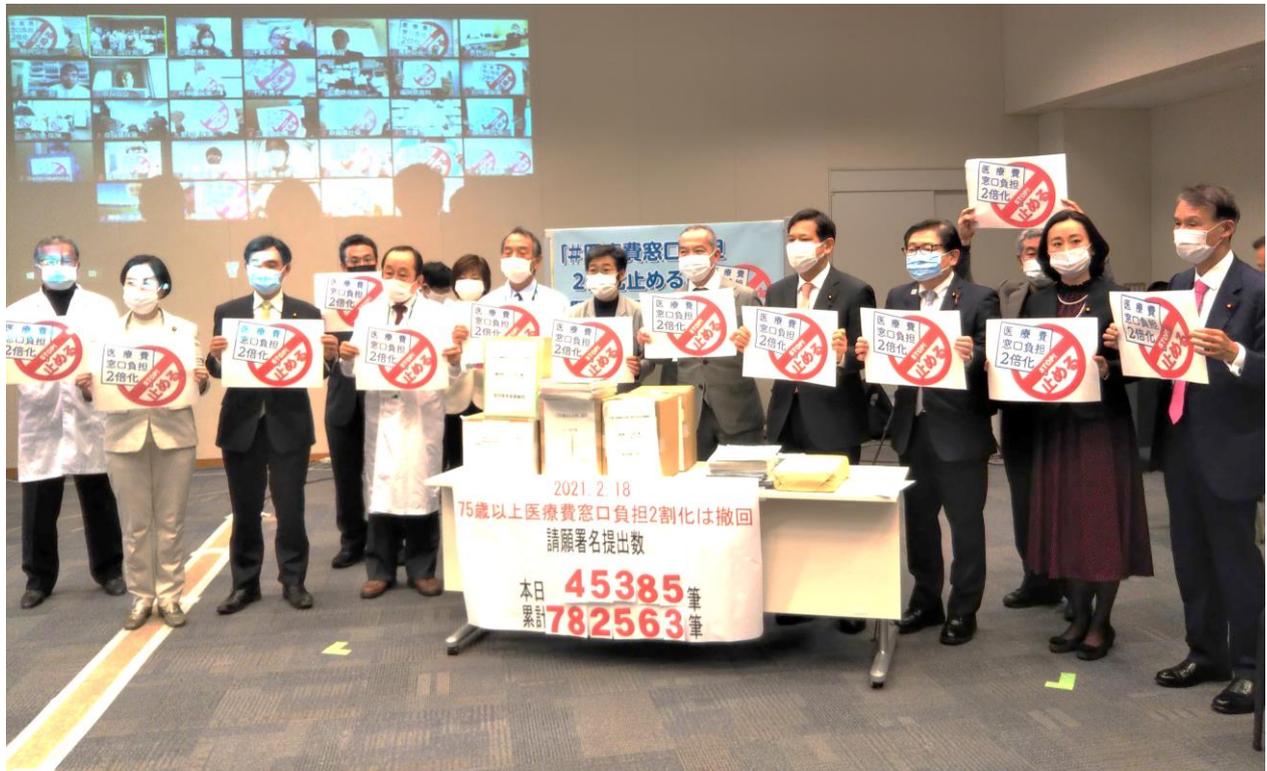


日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 武市 和彦 発行所 日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンボール中野 504 号
TEL/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
http://www.nihonkouren.jp

発行：隔月 1 回
2021 年 3 月 1 日
No.348



提出された署名を前に参加の国会の皆さん、全国からオンライン参加の皆さんとともに 2.18 議員会館

75 歳医療費窓口負担 2 割化法案は廃案しかない！ あと 30 万署名を集めよう！

3 月 22 日～27 日全国一斉宣伝行動を提起

「#医療費窓口負担 2 倍加止める 2.18 緊急 WEB 集会」に 163 名参加
45,385 筆の署名を国会議員に届けました 累計で 782,563 筆を提出

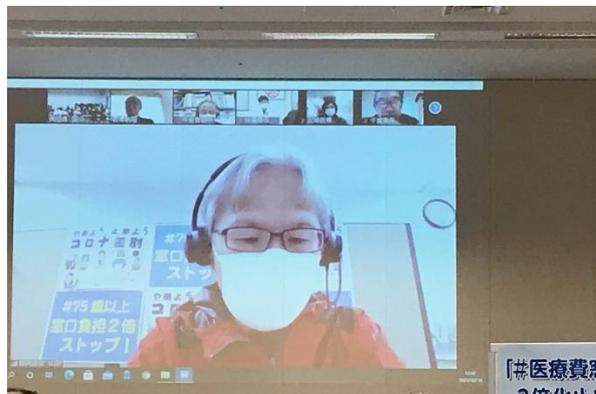
#医療費窓口負担 2 倍加止める 2.18 緊急 WEB 集会が衆議院第 2 議員会館で開催されました。主催は保険医団体連合会、中央社会保障推進協議会、全日本年金者組合、日本高齢期運動連絡会の 4 団体。医療・介護サービスの提供側と受ける側の団体が一緒に開催しました。集会には 12 名の国会議員も参加それぞれからご挨拶を受けました。議員の皆さんからは「コロナ禍のこの時期に受診控えに加速がかかる患者負担法案は絶対に反対！」との力強い挨拶が多く寄せられました。開会挨拶で保団連の住江会長は厚生労働大臣

の国会での発言を取り上げ、高齢者の生活は喘ぎそうになっているのが現実である。こんな時に負担増はとんでもないと挨拶、リレートークでは 8 名が発言。75 歳医療費 2 割化に該当する当事者からは、夫婦の医療費が年間 15 万円 2 割負担になれば医療費負担がさらに上がり生活が大変になると発言。神奈川社保協の根本事務局長は、厚生労働省が発表している 2 割化の対象者の数と広域連合から入手した対象者の数に 1.7 万人の差があり、3 割の方も含めると 41%の方が対象になることが判明、昨年 11 月以降、27000 筆の署名を集め、紹介議員も 11 名に

なっていると発言。年金者組合からは、高齢者アンケートに寄せられた声が紹介されました。閉会挨拶に立った日本高齢期運動連絡会の菅谷代表委員は当面の行動計画について報告、3/18・4/22に国会要請行動。4/10に国会前集会

を開催すること、3/22から27日の週に全国一斉宣伝行動が呼びかけられました。この法案は高齢者の命を守るためには廃案しかありません。ひろく国民のみなさんに訴えていきましょう。

リレートークでの会場参加発言者のみなさん



オンラインで各地から参加 発言も多く出されました

「第34回日本高齢者大会 in ながの」実行委員会報告

今年の高齢者大会ながの 9月23日(木)オンライン開催です

【メインスローガン】

「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」

【長野大会サブスローガン】

「コロナ禍の今こそ！ 憲法をいかし、いのちとくらし・人権と環境を守り
平和で福祉を大切にする社会を みんなの知恵と協同で！」

全体会講演者

中野 晃一 氏 政治学者、上智大学国際教養学部教授・国際教養学部長

「日本の政治の何が問題か、立憲主義をどう取り戻すか」など政治学者として講演

開催日	: 2021年9月23日(木・祭日)の1日
開催時間	: 10:00~16:00(9:30開場)
会場	: JA長野県ビル アクティーホール、会議室
内容	: 全体会と学習分科会5講座程度
参加規模	: 1000名 現地会場へは長野県内参加者を主とし 250名 Webでの参加は46都道府県に最低1カ所の視聴会場を設置し 750名
参加費	: 全体会1000円、学習講座・分科会1000円(資料代こみ)

特別寄稿

新型コロナが露わにした労働市場の「ゆがみ」と「見えない貧困」

板垣淑子(NHK おはよう日本チーフ・プロデューサー)

新型コロナの影響で経済活動が長期にわたって停滞し、真っ先に影響を受けているのは、弱い立場の労働者だ。非正規で働く人たち、とりわけ外国人労働者は、職を失い、生活を維持していくことさえ難しい状況に陥っている人も少なくない。

外国人労働者の人たちは、リーマンショックの時にも、いわば「雇用の調整弁」として、真っ先に仕事を失い、苦境に立たされた過去がある。しかし、リーマンショックの時には、まだ母国に帰るという選択肢があった。今回の新型コロナでは、国境を越えて移動することが難しくなり、母国に帰ることさえできない状況に陥っている。

より困窮が見えにくいのは、働くために「留学生」の立場でやってきた人たちだ。学校もオンラインなどになり、飲食店などでのアルバイトもなくなり、たった一人、困窮しながら孤立を深めている。NPO など、各地の支援団体が支援の呼びかけを続けているが、行き渡っているとはいえない厳しい状況が広がっている。新型コロナの感染拡大前、都市部の飲食店や居酒屋、コンビニなどを支えているのは、こうした留学生など、外国人のマンパワーだった。その人たちは「働かなければ学べない」状況にもともとあって、アルバイトなどで学費や生活費を稼いできた。ついには学費も払えなくなると、日本に滞在するビザさえ失いかねない危機にも陥っているのだ。日本にあこがれ、日本で働きながら懸命に学んできた留学生の人たちがいま、どんな思いでいるのかと思うと、胸が締め付けられる。

目に見えない失業者 59 万人

当たり前のことではあるが、苦しい状況に追いつめられているのは、日本人も同じだ。特に女性が厳しい立場に追い込まれている。そのことを如実に示すデータもある。

新型コロナの影響もあって、ここ数年下がってきた自殺率が去年の夏以降、増加に転じている。とりわけ女性は、昨夏、自殺率が前年比で倍近く高い数値を示した月もあ

る。労働者としての女性がいかに弱い立場におかれているのか、そのことで経済的に困窮し、追いつめられている女性たちがいかに多いのか——新型コロナの感染拡大前から潜在的にあった非正規労働に従事する女性たちの問題を新型コロナは露わにしているとも言えるのではないだろうか。

わたしが所属するおはよう日本では、特にシングルマザーの女性たちの危機を繰り返し伝えている。そもそも、シングルマザーとして子供を育てながらパートやアルバイトなどで働いていた女性たちは、飲食業やスーパーマーケット、看護師、介護福祉士などの仕事を時間を区切って、パートタイマーや時給制のアルバイトなど、非正規で働いていたという人が少なくない。しかし、保育園や小学校などが一斉に休止したことで、預け先に困ったことから仕事を失ったという声は数多く聞かれた。また、こうしたエッセンシャルワーカー、つまり常に不特定多数の人と接する可能性が高い仕事にあたっていることで、子どもへの感染リスクを不安視し、自ら休業、退職したという声もあった。さらにこうしたリスクや不安を抱えながら、再度、収入を得たいと就職活動をしてみても、条件に見合った仕事が見つからず、生活を切り詰めるしかないという実態が広がっているのだ。こうした「働きたくても働けない人」は女性だけではないが、求職さえコロナ禍であきらめてしまっている実態がある。求職活動していない人は、失業者に数得られないため、目に見えない失業者ともいわれる。コロナで仕事を失い、その後、求職せずにいる人は、東京大学の玄田有司教授によれば、59 万人にも上るといわれる。こうした人たちをどう就労に結び付けていくのか。いま、真剣に向き合わなければ、貴重な労働力が失われたまま、日本経済にも深刻な影響を及ぼしかねないと玄田教授は指摘する。

いま、育児中の女性を支援する団体では、食料の配布や相談窓口の設置など支援を進めているが、それだけではなく、公的支援のさらなる拡充も必要なのではないだろうか。

さらに、この機にひとり親家庭で育児しながら働いている労働者については、新たな支援制度を検討することこそが、コロナが露わにした現実から学び取るべき教訓だと思う。

若者がコロナ禍で苦境に立たされている

さらに、新型コロナの影響が広がる中でも、もっとも見過ごされがちなのが大学や専門学校に通う若者たちではないだろうか。小学生や中学生、高校生は、通学路が決まっています、行動範囲も限られていることから、学校が再開されているが、各地から学生が集まってくる大学や専門学校では、学生たちの行動範囲も広く、リスクが高いとしてオンラインでの授業を行っているところがほとんどだ。その結果、特に大学1年生や専門学校1年生は、一度も通学せず、友達も作れないで孤立していて、相談もできずにいる人が多い。さらに、奨学金を借りながら、アルバイトで生計を立てている学生は、収入も断たれ、アパート代が払えなくなり、困窮を深めている人も少なくないのだ。

若者がコロナ禍で苦境に立たされている姿から、わたしたちが学びとらなければならないことがある。それはそもそも、ここ数年、「働かざる者、学ぶべからず」を是としてきたことだ。そもそも学生は、学ぶのが本業のはずだが、学費のため、生活費のために、奨学金という借金を背負ってまで進学しても学費が足りず、さらにアルバイト代で自らの生活費まで背負っているという若者が増えているからだ。

私は、この問題について「高校生ワーキングプア」という言葉を用いて、情報発信を続けてきた。高校生がアルバイトをして家計を支えながら進学し、奨学金を借りて大学進学、専門学校進学が当たり前になっていることも警鐘を鳴らし続けてきたのだ。しかし、奨学金の無償化も限定的なものにとどまり、高校生たちのアルバイトの状況は変わらず、こうした高校生が大学進学後もアルバイトに従事しなければ、学ぶことがかなわない現実も水面下で深刻下しつづけてきた。それが、この新型コロナの影響で決定的なものとなり、大学や専門学校の中退を余儀なくされ、奨学金の返済だけが残って、追いつめられる若者が後を絶たないのだ。

外国人労働者にしても、女性にしても、そして学生にしても——これまでギリギリ崖っぷちに立たされてきた弱い労働者たち——当事者たちが歯を食いしばって頑張っ

きたことで覆い隠されてきた「雇用のゆがみ」を新型コロナウイルスによって露呈させられたのかもしれない。だからこそ、本質的な解決策を今、講じるべきだと考える。

そもそも日本の貧困は、これまで「見えない貧困」だったと感じてきた。たとえば、日本の子どもは「7人に1人」が相対的貧困の状態にあると言われているが、小学校や中学校、高校に取材にいても、どの生徒も同じように明るく、元気で到底、貧困に困っているようには見えない。割合的には、30人ぐらいのクラスであれば、2～3人はそういった状況の子どもがいるはずなのに、全然、分からないのだ。

特に子どもは、親の収入が少なくても「親に恥をかかせたくない」「親を悲しませたくない」と、家族の笑顔のために自分の欲求や願望は二の次で、我慢していると自覚もないまま、我慢しているケースがほとんどだ。高校生ぐらいになると、家庭の経済状況が分かるようになり、お小遣いをもらわないばかりか、自分がアルバイトすることで家計を支えようとする生徒も少なくない。子どもたちのアルバイト代が、世帯の貧困まで「見えにくく」してしまっているのだ。私は、2018年、こうした高校生たちに焦点をあて、本来、労働者ではない高校生が学ぶために“労働者”となってしまう現実を「高校生ワーキングプア」と呼び、取材を続けてきた。こうした若者たちが、奨学金を頼りに進学し、そして大学生となって、コロナ禍に襲われているのだ。若者たちの困窮が深刻化し、露わになった今こそ、公的で恒久的な支援の枠組みについて考えるべきではなかろうか。

「家族のためなら、何でもやってあげたい」高校生優子さんの過酷な日々

私が「高校生ワーキングプア」の問題に注目した4年前、ある女子高生との出会いがきっかけだった。取材では驚きの連続だった。日本一、忙しいのではないかと思うその女子高生は、強く、たくましく、そして優しい女性だった。

その働きぶりに驚愕したのは、朝から晩までNHKのロケクルーが密着取材させてもらった、ある一日のことだった。彼女よりもずっとタフな大人である取材班一同が、たった一日でヘトヘトになった。それほど過酷なスケジュールを高校生が毎日こなしている、そのことが衝撃だった。

優子さん(仮名)は18歳。シングルマザー

の母親を支えて家事のほとんどを優子さんがしている。シングルマザーの母親は、朝から夕方までパートで働いた後、夜は水商売をしているダブルワークのため、ほとんど家にいない。まだ幼い小学1年生の弟、小学6年生の妹の面倒を見ながら高校に通い、平日の夜と休日、家計を支えるためにアルバイトをしている。

優子さんの目まぐるしい一日は、夜明け前の早朝四時から始まる。

起きるとまず、家族4人分の洗濯をしながら、前夜に干した洗濯物をたたんで、しまう。台所と居間の掃除を済ませると、洗濯機がピーと鳴り、洗濯を干し始める。洗濯は朝晩2回、必ずするそうだ。座る暇もなく、朝食の準備をして、朝7時には妹と弟を起こしに行く。二人が食卓で朝ご飯を食べている最中も、妹の髪の毛を結ってあげたり、弟の身支度を整えたりして、二人の世話をしながら、朝食を食べさせる。結局、この朝、優子さんは座る瞬間はなく、朝食の片付けや自分の通学の準備に追われた。弟と妹を送り出した後、夕食の準備を手際よく済ませ、ようやく登校だ。

学校に到着すると、友人とおしゃべりに興じる優子さんは、どこにでもいる女子高生だ。好きなアイドルの話で盛り上がっている様子から、貧困状態にあることなど、想像できない。授業中は熱心に教師の話に耳を傾け、メモを取り、集中を切らす様子はなかった。勉強熱心で、成績も優秀な優子さんは、通知表はオール5だと教えてくれた。

そして、学校が終わると足早にバイト先の居酒屋へ向かう。そこで夕方5時から夜10時まで、平日は5時間働く。バイト先でも頼りにされているのか、洗い場からホールのウエイトレスまで、フル回転。ビールジョッキを両手に6つ、慣れた様子で客席の間をせわしなく動き続ける。

後を追って、取材しているロケクルーは、この時点で疲労困憊。その後、家へ戻ると深夜11時。そこから自分の夕食を作って、食べて、後片付けをする。この日の夕飯は、スパゲティだった。そして、バタンキューかと思いきや、そこから受験のための勉強を始める。眠りにつくのは午前1時過ぎだ。そのわずか3時間後、翌朝4時、起床し、忙しい生活が繰り返される。体がもたないのではないかと心配になるが、「たまに、バイトが休みの日にゆっくり眠れば大丈夫」と笑顔で話す。

そんな毎日を送っていても、優子さんは「家族のためなら、何でもやってあげたい。お母さんは苦勞しているから、少しでも楽しんであげたい。自分がやっていることは大変だとは思わない。当たり前なこと！」とサラッと語る。自分の境遇を嘆くことはなく、むしろ、もっと稼いで家族を楽しんであげたい、と言う。進学について聞いても「4年生の大学に行きたいけど、お母さんを早く支えたいから2年で卒業できる専門学校にします」と当たり前のように話してくれた。心優しい、そして強い女性だ。

優子さんが、学校に通う時間（本業の学びの時間）+家事にかかる時間（家事労働という形の労働時間）+アルバイトの時間（家計のための労働時間）を足し合わせると、20時間近く、過労死ラインを大きく上回る「働き方」だ。それでも、大好きな家族のために自分ができることがあるなら、頑張っただけだと、笑顔を見せながら語ってくれた。

優子さんは番組の放送後、夢だったキャビンアテンダントを目指すために、航空業界への就職に強い専門学校に進学を果たした。奨学金を借りて、アルバイトをしながら今も奮闘を続けている。居酒屋や飲食店のアルバイトを掛け持ちし、新型コロナの影響を受けながらもたくましく夢に向かって歩んでいる。優子さんがこのままつまずかずに卒業し、夢をかなえてくれる未来が待っていますように・・・祈るしかできない自分に忸怩たる思いを抱えながら、それでも優子さんのような若者に支援の手が届くように、発信し続けるしかないと思っている。

今、家計を支えるためにアルバイトをする学生が増えている。人手不足が深刻な雇用市場では、大学生、専門学校生、高校生らの若者は重宝され、皮肉にも、働きたければ働きたいだけ、働くことができってしまう。こうした若者たちが、新たなワーキングプア層を作り出すことになってしまっているのだ。

朝から夜まで、フルタイムで働いても、生活保護水準以下の収入しか得られない「ワーキングプア」の実態を伝えるNHKスペシャル「ワーキングプア～働いても働いても豊かになれない～」を制作したのは、2006年に遡る。その番組の中では、憲法25条で保障されている最低限度の生活水準（＝生活保護水準）以下の収入しか得られていない人たちと位置付けた。

時を隔てた今、ワーキングプアの問題は解決に向かうどころか、深刻化の一途をたどっ

ている。こうした中で、本来「学ぶこと」が本業の高校生たちが家計のために働かざるを得ない状況が生まれているのだ。しかし、それでいいのだろうか――。

「高齢者ワーキングペア」現実取材で明らかにし報道続ける

そして、コロナ禍で苦境に立たされる、女性、外国人労働者など弱い立場で働いてきた労働者たちの現実を「見えない」ままにしないためにも、現実取材で明らかにし、報道し続ける必要性を今こそ痛感している。発信し続ける覚悟を持たなければならないと、思っている。そして、いま、新たに取り組み始めたのが、高齢者ワーキングペアだ。年金だけでは食べていくことができず、生活保護に頼らず、アルバイトに従事していた高齢者たちもまた、仕事を失っている現実が浮かび上がってきたからだ。もちろん生活保護を利用することはできる。

しかし、重要なのは、高齢者自身が「自分の居場所が欲しい」「必要とされる人間でいたい」と強く願っている、その心ではないだろうか。新型コロナでその心の居場所でもある仕事を失い、孤立している高齢者に寄り添うことは、この社会をこれまで支えてきてくれた高齢者への当たり前前の謝意であり、日本社会がその優しさを持ち合わせていると信じていたい。

この原稿を読んでもくださった皆さんには、困窮している人たちの現実を知ったうえで、私たち何ができるのか、具体的に考えてみる

きっかけとしてもらえれば、こんなに嬉しいことはない。

公的な支援の枠組みを構築していくには、まだまだ時間が必要だが、現実には待たなしの逼迫した状況がすでにあるためだ。新型コロナウイルスは、必ず収束する日がくる。そう信じて、前を向いて、自らができることを、今、可能な形でやり続けることこそ、私たちの社会が強くなれる力になるのではないだろうか。

※編集部で中見出しを見つけました



板垣淑子氏プロフィール

NHK 報道局社会番組部

おはよう日本チーフ・プロデューサー

第27回日本高齢者大会 in 三重で「老人漂流社会…このまちでくらしたい」で記念講演やその後の大会で学習講座講師

「無縁社会」「老後破産」等番組制作と著書多数

このコロナ禍に

75歳以上高齢者の負担増!?

#医療費窓口負担2倍化止める 緊急記者会見



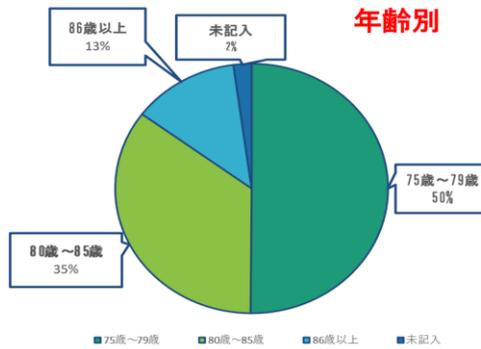
高齢者医療費2割負担に関する(75歳以上)アンケート中間報告
3割が受診控えと回答 2倍化は高齢者の命にかかわる

3月10日医療団体連絡会議、中央社会保障推進協議会、全日本年金者組合のみなさんと一緒に厚生労働省記者クラブで記者会見を行いました。各社の記者9人が参加。それぞれの団体から訴えがされました。日本高齢期運動からは

武市事務局長が参加、この間取り組んでいる高齢者緊急アンケートの結果を報告しました。報告の資料とその内容が掲載された「しんぶん赤旗」3月12日付け記事を転載いたします。

高齢者医療費2割負担に関する(75歳以上)アンケートから見てくるもの 2割化で受診控えがさらに増大

- アンケート実施期間
2021年1月15日～3月末
- アンケート回収数
1,388通 (3月5日現在)
- 実施方法
高齢期運動連絡会各県組織
から対象者に配布
- 22都県・4全国組織から回収

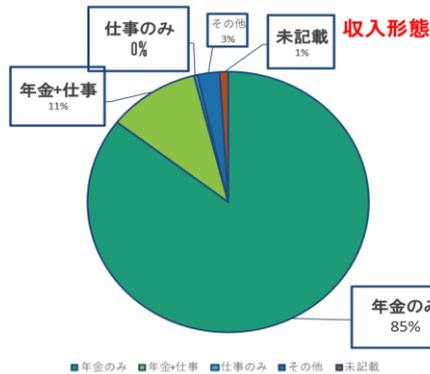
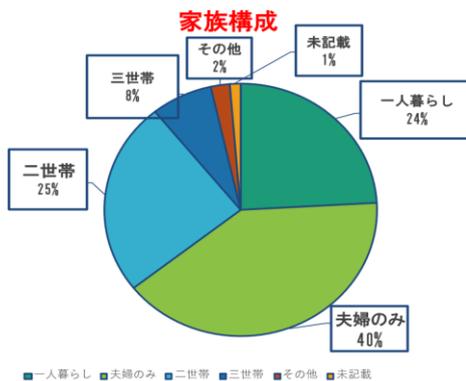


2021/3/10

日本高齢期運動連絡会

1

ひとり暮らし・夫婦のみ6割 年金のみが8割

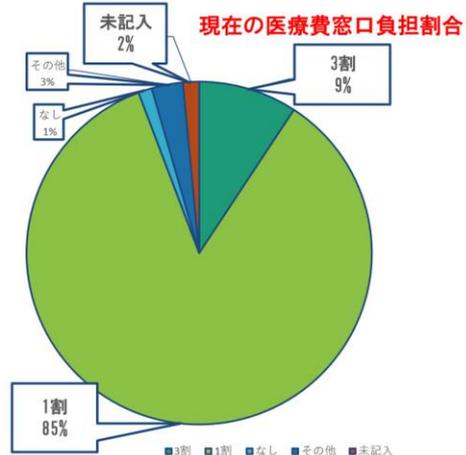
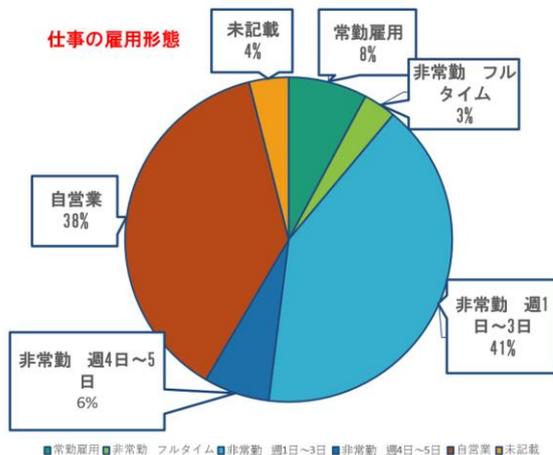


2021/3/10

日本高齢期運動連絡会

2

非常勤5割 自営業4割 窓口負担現1割8.5割

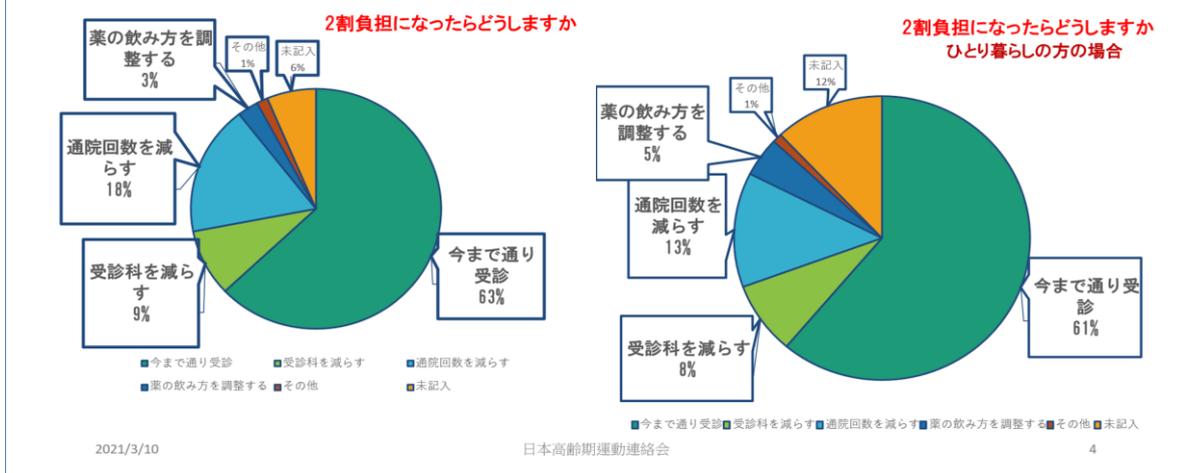


2021/3/10

日本高齢期運動連絡会

3

窓口負担2割になると 3割が受診控えと回答



第11回国連・高齢化に関するWGはweb開催

コロナ禍で昨年の会議は延期され、今年
は、3月29日から4月1日国連本部において
web開催となります。※OEWSAで検索で誰もが
参加できる予定。

今年のテーマは、「教育、訓練、生涯学習
と能力構築」と「社会保障と社会保障、「労働
権と労働市場へのアクセス」です。

また同時開催するNGOの会議は、「人権は
すべての年齢層のためのものです」「EUは国
連高齢者人権条約制定のための集会をリード
しなければならない」等各国から多くの報告
が予定されています。

なお、全体会で日本からのステートメント
発信が承認され、日本高齢者人権宣言案にも
ふれて高田清恵琉球大教授がビデオで発言し
ます。(鐘ヶ江正志)

**私たちは変化の一部になり、変化になりたい
です！**

=第11回OEWSAに関して、Vijay
Naraidoo(DIS-MOIの高齢者の権利のための大統領)
のブログから一部を紹介
します。=

高齢者の権利をよりよく
保護し、擁護するための新
しい条約の時期が到来して
います。



私たちの国は、多くの社会的保護と社会的
安全保障政策において積極的です。高齢者
は、とりわけ、無料の医療サービス、無料の
輸送サービス、非拠出型の老齢年金、在宅介
護施設、および彼らの保護のための包括的な

法律を受けています。他のサービスは、介護
者のサービス、医療施設の訪問、緻密で利用
者本位のレクリエーションセンターでの住宅
セミナー、高齢者デイケア等があります。

高齢者のすべての人権を保護および促進す
るための包括的かつ体系的な枠組みを提供し
ています。虐待、暴力、年齢差別、孤独、栄
養等の事例は、先進国と同様に発展途上の国
の社会でも対応する必要があります。

モーリシャスは、国連高齢者人権条約が、
保護、防衛、自治権、独立、選択権、決定権
に対する高齢者の権利の尊重がさらに向上す
ると言っても過言でないと考えています。

国連高齢者人権条約は、とりわけ、「高齢
者のすべての人権の保護と促進のための包括
的かつ体系的な枠組みを提供する。それは、
私たちの生活のあらゆる側面における高齢者
のあらゆるかたちの差別を禁止するだろうと
考えています。それぞれの人権が高齢者の私
たちに具体的にどのように適用されるかを明
きらかにし、強固な実践、監視、および説明
責任システムを提供します (出典 HelpAge)

★★★モーリシャス共和国

(Republic of Mauritius)

人口126.5万人・軍勢力・常備軍は存在
しない。国防・治安維持は主に警察やそれに
属する特別機動隊や沿岸警備隊によって担わ
れている。※2020年8月上旬にモーリシャス
の沖合で、日本の企業が関係する貨物船が座
礁事故を起こし重油流出。流出前SDGsの貧
困目標達成していました。